



ROTARIANS  
UNITED IN SERVICE  
DEDICATED TO PEACE

ロータリアン  
奉仕に結束  
平和に献身



会長 吉野 勲 幹事 板垣広志 クラブ奉仕 高橋良士 職業奉仕 飯野準治 社会奉仕 佐藤元伸 国際奉仕 阿蘇司朗 青少年奉仕 菅原辰吉

出席報告: 会員83名 出席55名 出席率80.88% 前回出席率82.35% 修正出席64名 確定出席率94.12%

ゲストスピーチ

“現場の声”

デザインの状況 —東京と鶴岡では—



財団法人庄内地域産業振興センターの佐々木恵子と申します。本日はこの“現場の声”のシリーズにお招き頂き、誠にありがとうございます。

経歴紹介の中にもありましたように、私は本年7月

16日に駅前再開発ビルにオープンしました庄内産業振興センターの中にありますデザインセンターというところで現在仕事をしておりますが、その以前はこの1月まで東京の広告プロダクションでグラフィックデザイナーとして働いていました。そちらで4年、ここ鶴岡に来てからは勤めてまだ半年ですので、本日は現在の仕事の話に加え、東京と鶴岡の比較という点で、相方の状況についてお話ししたいと思います。

東京で私が勤めていた会社は、社員数50名余り、創立25年という広告プロダクションとしては古株であり、また大手でもあるところでした。主なクライアント(取引先)は富士銀行・小学館・日経マグローヒル社・河合楽器などで、どちらかと言えば地味ではあるけれども堅実で優秀な企業ばかりお付き合いさせて頂いてましたので、仕事の環境は大変恵まれていたと思います。社員はこの全ての企業の仕事

庄内産業振興センター 佐々木 恵子 様

をするわけではなく、それぞれのクライアント別に分かれてチーム編成をしており、私は入社してから丸3年間富士銀行チームに配属されておりました。ここではデザイナー5名、コピーライター4名、営業3名の合計スタッフ12名で、全国の富士銀行に関する広報物全てを手がけており、しかもそれは代理店を通さず、富士銀行の業務企画部の方とこのスタッフの代表者が直接会議をし、企画を決定し、年間を通じたコンセプトの流れに乗っ取って広告作りを行うという、規模も内容も大きな仕事をしておりました。仕事は全てプロの手による、より良いものをとの考えが徹底しており、1つのプロジェクトに関してもカメラマン・イラストレーター・モデル・スタイリスト等々全ては専門家の手に委ねられ、デザイナーはその中で何をするかと言うと、これらのスタッフをどう使い、どういう世界を造り上げるか、その頭脳的な部分での制作をする役割なのです。

余談になりますが、銀行関係と言えば数字相手の堅い仕事が多いのですが、ポスターなどでモデル撮影のある仕事は本当に華やかで、楽しいエピソードも沢山あります。その1つに、私が丁度富士銀行の仕事をしていた頃、専属で使っていたのが秋山絵梨子さんという大変綺麗なモデルさんなのですが、今役者として人気のある陣内孝則さんがその銀行の店頭用のポスターを見てすっかり秋山さんに夢中にな

庄内空港の建設を推進しましょう

り、交際を申し込んで目出度く今年の10月に結婚したという、広告が取り持った縁とも言える楽しい出来事がありました。これは今後も良い思い出として残ることでしょう。

それから次に日経マグロウヒル社を中心クライアントとするチームに移り、日経パソコン、日経エレクトロニクス、日経ベンチャーなどの広告局の仕事をしました。ここでの仕事は主にこれらの専門雑誌に掲載する広告を取るために、相手先企業に雑誌の特性等を説明する広報物を作るというもので、銀行に比べれば規模も小さく地味ではありますが、仕事の内容そのもののレベルが高く、それなりに大変でした。デザイナーやコピーライターは営業を通さずに直接広告局の担当者になって自分の企画を説明しなければならないのですが、何しろ相手も、現代の時事やグラフィック、あるいは広告コピーなどに対する知識が豊かでかつ鋭く、ちょっとでも手抜きをするとビシビシ叩かれるのです。大変悔しい思いもしますが、打ち合わせを重ねて変更を繰り返し出来上がったものが自分のオリジナルよりもぐっと良くなることなどもあって、双方で1つのもを高めてゆくというスリリングな関係の中で仕事ができ、大変勉強になったと思っています。

そうしてようやく自分一人でも何とか自信をもって物を作り、またそれを人にきちんと説明することを覚え、ここが節目と感じた頃その会社を辞め、結婚し、この鶴岡へやって来たわけです。初めそれが生かせる職業に就くことができるか不安でしたが、運良く今の職場に巡り会うことができ嬉しい限りです。

ただし、ここでは単にある商品、又はある企業のために何かを作ってきた今までの仕事とは性格的に大きく違った事をしています。このセンターにおける私の役割はデザインという概念を物と人、あるいは企業と人を結び付けるコミュニケーションとして大きく捉え、確実な社会的役割を果たすよう一般に広め、またその質を高めることによって産業振興に発展させてゆこうとすることです。この地域では、デザイナーは単に印刷の行程に付随して生まれると

ころのレイアウトやイラストやらを描いたり、作ったりする職人的な扱いがされがちだという話も聞いております。デザイナーを専門の職業としている人の存在も余り知られていないために、ある企業で何か例えば一つのチラシを作ろうと思った場合、何をどう企画し、形作ってくれるか、即ちどういうデザインをしてくれるかという人を捜すのが順当なことのはずなのに、そうした物を具体的に形にする最終段階の印刷業の方にまず仕事の依頼をしてしまうのです。そこでは、紙代やら製版代といったごく物理的なレベルでの予算の中でのデザイン料ということになり、その中でこれこれこうするようにと逆にそこでデザイナーに仕事が発生されるわけです。こうして時間的にも予算的にも、また企画そのものにも縛られた状態で仕事をしなければならないことがまず第一にとっても大変であり、なかなか良い物が出来ない一因なのではないかと思えます。また専門スタッフというものが不在な由に、デザイナーはデザインから、イラストから、場合によってはコピーも書き、なおかつ営業活動もするという、万能選手をしなければならないわけですから、これは大変厳しい状況であると言えます。庄内のデザインレベルは低いと言われていますが、デザイナーおのおのが質を高めることはもちろん、大小の規模に関わらず、ものを作る姿勢において充実した内容を目指すことが大切だと思います。地元企業の中でも大手のところになると、デザイン関係の仕事は全て県外に外注している傾向がありますが、地元のものではできるだけ地元でできるよう努力したいものだと思います。企画という事に重点をおいて、じっくりとそのコミュニケーションの方法を考えてゆかないと、情報過多のこれからの時代に物が売れ、又、企業が活性化してゆくことは大変難しいことであろうという気がします。デザイナーはそうしたコミュニケーションを形作るプロとして自覚し、企業はそうした存在をプロとして認め、信頼し、そこから共に何かを作ろうとする、そうした体系が出来上がることが、引いては産業の活性化に結び付くのではないのでしょうか。

東京での常識がここでは大きく異なる点もいろいろ

ろありますが、作る側、依頼する側、相方の悩みを聞き、相談を受け、良い橋渡しになれるよう一步一步努力を積み重ねてゆきたいと思います。去る10月に行ったデザイン展もその一つの表われですが、今後はそういったイベントに加え、より仕事に密着した具体的活動を行ってゆく存所ですので、今日お集

まりの皆様にもさまざまなお教えを頂きますよう、今後とも宜しく願いたします。

皆様のますますの発展をお祈りして、ここで私のお話を終らせて頂きます。本日は御拝聴どうもありがとうございました。

## 会長報告

吉野 勲君

本日は朝から風雪まじりの天候で、本格的な冬將軍の到来も間近い季節となりました。会員の皆様どうぞご自愛の程お願い致します。

本日は11月の最終例会でございまして、先の例会でもご案内致しました通り、例会終了後に総会に切り替えたいと存じます。

2番目に、酒田中央R.Cより先頃行われました認証状伝達式典のお礼状が参っております。

事務局の斎藤友子さんが先週の火曜日、右手ケンショウ炎の為手術されました。クラブよりほんの少少ですけどもお見舞金をさし上げましたので、ご報告申し上げます。

## 幹事報告

板垣広志君

○会報到着の連絡

山形西、山形、八幡の3クラブより到着、回覧中です。

○例会変更のお知らせ

酒田R.C

日時 11月25日 午後6時30分点鐘

場所 ホテルリッチ酒田

登録料 3,000円

余目R.C 12月11日の例会を忘年会の為

日時 12月10日 一泊で

午後6時30分点鐘

場所 湯の浜グランドホテル

登録料 10,000円

○作田P.Gよりお便りが参っております。

## 委員会報告

### 親睦活動委員会

丹下誠四郎君

☒スマイル

小松広穂君 18日に女の孫が生まれました。逆子で三井先生には大変お手数をかけました。おかげさまで母子共に健康です。スマイル致します。

丹下誠四郎君 私の甥が私と協同経営で、東京赤坂にクラブ『シェ・モア』を今日オープンする運びとなっております。東京においでの際は是非お寄り下さい。サービス致します。

## 出席表彰

庄司嘉男君 4年間皆出席

## 年次総会

11月10日理事会の承認通り、鶴岡ロータリークラブ細則第4条第1節により、次期の会長エレクト、副会長選任の件でございます。

当クラブでは、5代の会長により組織されると言う規定でありますので、指名委員会の委員を決定させて頂きたいと思ひます。

就きましては次の5名の方々をご指名させていただきまますので、ご承認を賜りたいと存じますので全員のご賛同をお願いいたします。

内山喜一君・佐藤順治君・山口篤之助君

市川輝雄君・吉野 勲君

満場一致のご承認を賜りましたので、唯今ご指名

いただいた方は例会終了後、3階部会室にお残り頂きたいと存じます。

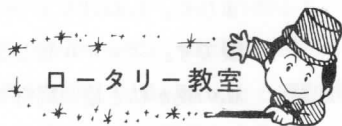
議案は以上でございます。これで総会を終了させていただきます。

## ビ ジ タ ー

酒田中央R.C 海野 寛 康 君  
鶴岡西R.C 古川 暁 一 君

## ロータリー財団

本日のご寄付 9,668円



(第1432回例会会報より続く)

### クラブの諸会合と計画

標準ロータリークラブ定款にさだめられているように、ロータリークラブは週1回例会をひらかなければなりません。例会は、クラブ細則で規定した日時に、昼食あるいは夕食をかねて例会をひらくのが一般的です。なかには朝食をかねて例会をひらくクラブもあります。例会への出席は、会員のぜひ必要な条件としてさだめられており、理由がなく、4回連続して欠席しますと自動的に会員としての身分を失うことになっています。もちろん、やむをえず欠席しなければならないこともあり、そのようなときはほとんどの会員が、病気のため長期欠席をみとめられた場合をのぞいてメイク・アップ(出席補填)を心掛けています。メイク・アップとは「標準クラブ定款」にさだめられているように、例会欠席の直前、直後の1週間以内に他クラブ(都合のよいクラブ)の例会に出席して、自分のクラブ例会への欠席をうめあわせることです。

海外旅行にでかける場合は、公式名簿に世界の全クラブの例会場および日時がでているので、この名簿でみるとよいでしょう。他クラブの例会にでるときには、会員証をみせるだけで出席できます。しかし、半年間における例会出席のうち、最低30%は、自分の所属するクラブの例会に出席しなければならないことになっています。ただし、理事会が認めた理由があるときは、このかぎりではありません。

例会出席を重くみる理由は、いろいろあります。50年にわたり一度も欠席しなかったロータリアンもいます。たとえば、例会ではさまざまなプログラムがおこなわれますので、出席していれば、社会、経済、政治、科学技術の分野の現状や展望について、認識を深めることができます。また、時宜にかない、地域の実情にそって、しかもロータリーの目的と関連したプログラムがおこなわれることがしばしばあります。あるいはまた、クラブ会員が自分の職業について興味深いスピーチをすることもあります。

さらにパネル討論会、クイズ、寸劇など会員自身が参加したプログラムをおこなえば、いっそう興味がつります。そのうえ、ロータリー関係の最新の情報や資料あるいはクラブ活動や地域社会のニーズについて会員に知らせるためのプログラムも、年に数回おこなわれます。この例会にたびたび欠席することは、クラブ活動のもととなる親睦をそこなうこととなります。

(次回へ続く)

